

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

政権交代により衰退・消滅した i C G P A は汎用的能力育成方策のヒントになり得るか

川端千鶴 (北海道大学高等教育推進機構・国際産学協働教育ユニット講師)

「マレーシア高等教育計画2015～25」(高等教育省2015年)は、マレーシア教育開発計画および国家高等教育戦略計画のビジョンと目標に基づいて策定され、21世紀の課題に取り組む知識、技能、才能を備えた学生を育成することを目的としている。



マレーシア高等教育計画2015～25 (高等教育省)

本計画の10の重点課題 (Shifts) のうちシフト1 (第1目標) が「国家教育理念に沿った全人的視点や起業家精神、バランス感覚に富んだ卒業生の輩出」である。

第1目標達成のための取り組みの一つとして、15年、高等教育における学習経験に基づいて、学生の全体的な達成度を具体化する統合評価システム「統合的累積的 G P A (Integrated Cumulative Grade

Point Average : i C G P A)」が導入され、政府は19年度までに国内の全大学・全学部での実施を宣言した。i C G P A 導入の背景は主に2つある。



マレーシア教育改革計画 重点課題10

特定の知識・専門的スキルのみならず倫理的な意思決定能力や急速な変化へのレジリエンス (柔軟性) が求められる中で、高等教育省が、マレーシア社会への貢献やグローバル展開に積極的に参画していくために学生が道徳心、ナショナル・アイデンティティー、多文化受容力と文明的リテラシー (cultural and civilisational literacy: beradab)、自己理解力、人間関係形成能力などを獲得する必要性を重視していることが1つ目であ

る。2つ目は、高等教育修了者が身に付けるべき汎用 (はんよう) 的能力について、大学・産業界・卒業生間でニーズと認識にミスマッチが起きていることである。

i C G P Aは、学習者の A D A B (倫理・価値観) や宣言的知識・機能的知識・専門的スキル・技術的能力の統合的成長および学習成果を評価・報告するシステムまたは仕組みである。

教育省 (15年7月～18年5月の間、教育省と高等教育省に分立) に規定されている6つの学生目標およびマレーシア資格枠組 (Malaysian Qualification Framework) で定められている以下の8領域の汎用的能力達成度を、各大学の授業を通して評価し、結果をレーダーチャート形式で示して成績証明書に記す。ここで注目に値するのは、i C G P Aは8領域の資質について従来型の評定と同様0～4点の評定を成績表に併記できるとした点である。

1. 知識
2. 精神活動スキル・実用的スキル・専門スキル
3. 社会的対応力・責任感
4. 価値観・態度・プロフェッショナリズム
5. コミュニケーション能力・リーダーシップ力・チームワーク力
6. 課題解決能力・科学的判断力
7. 情報管理能力・生涯学習能力
8. 管理的・起業的能力

i C G P Aの施策は当時、政府の強い上意下達により展開されていた故、各大学の教員や産業界において理解が行き渡っていなかった。筆者自身も、産学連携事業で継続的に協働させていただいているマレーシアの企業人の皆さまの中に i C G P Aを知る方々をいまだ存じ上げない。

i C G P Aは、18年5月の総選挙で野党連合から立候補し、92歳で首相に返り咲いたマハティール政権により義務化が撤廃され衰退の一途をたどり消滅に至る。マレーシア国内でこれらの課題がある一方で、今日、汎用的能力の評価について日本をはじめ世界的に関心が集まっており、i C G P Aの仕組みは今改めて汎用コンピテンス (能力) 達成度評価方策に関する研究への示唆になり得るのではないかと思量する。

< 筆者紹介 >

1969年生まれ。日本、メキシコなどで育つ。商社、国際援助機関などでの勤務を経て2021年より現職。オーストラリア・グアテマラの先住民社会での教育プロジェクト、メキシコ・ボリビアで児童労働者の教育プロジェクトに従事。英国バーミンガム大学 (国際開発学) 修士。現在、筑波大学博士後期課程在籍。専門はキャリア教育学。マレーシア i C G P Aの事例より日本の学士課程における汎用コンピテンスの育成と評価方策を究明したい。